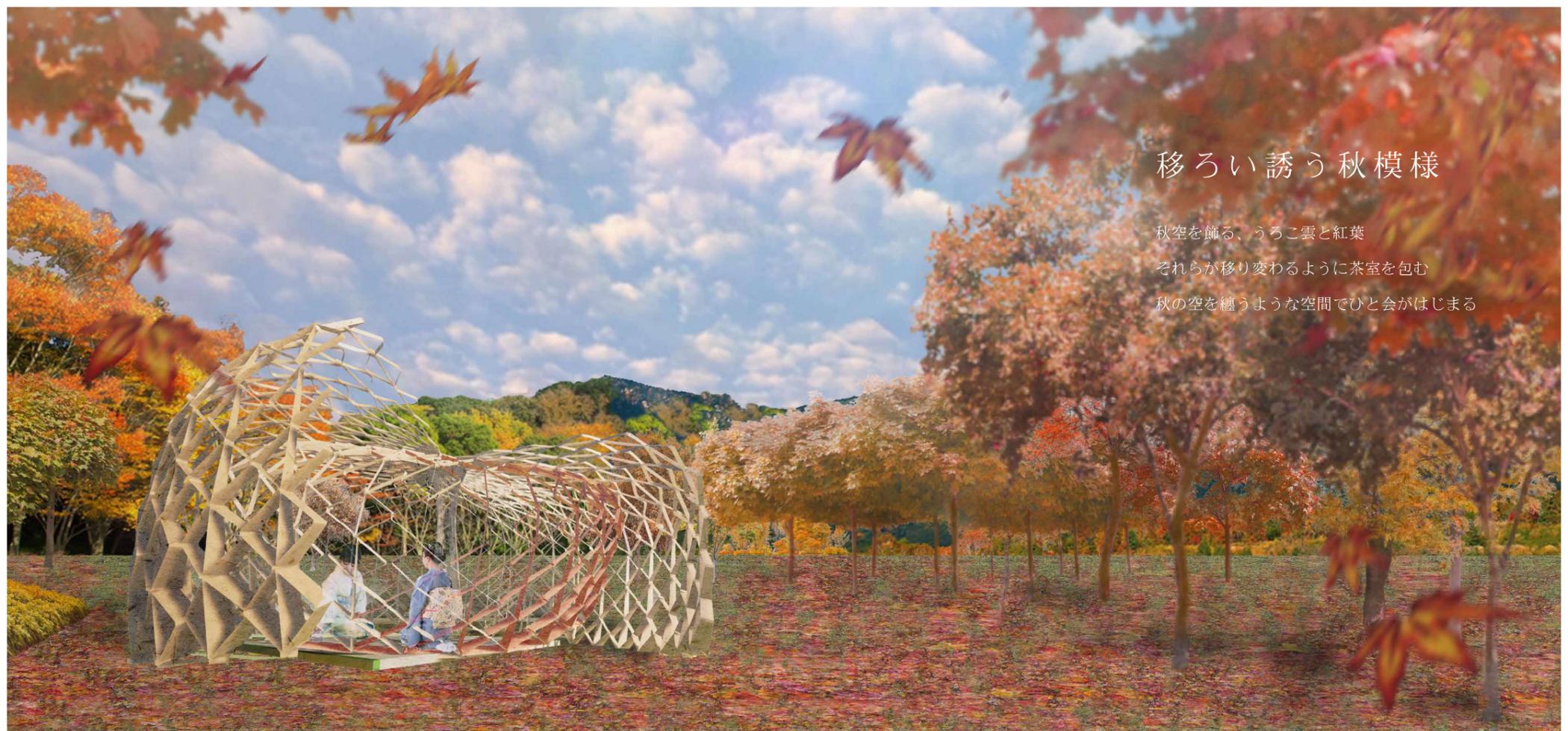


移ろい誘う秋模様

秋空を飾る、うろこ雲と紅葉
 それらが移り変わるように茶室を包む
 秋の空を纏うような空間でひと会いはじまる



01_コンセプト - 秋の空と紅葉が移りゆく空間 -



秋の空に浮かぶうろこ雲、そして映える紅葉。それぞれが重なり合いながら、秋の空の風景を形作る。日本では古くから物事を秋空と例えたり、紅葉を愛でる習慣があり、そこには移ろいゆくものに対する感性が読み取れ、儚さに美しさを見出した茶の世界とも繋がる。そこでうろこ雲と紅葉が移り変わっていくような空間はできないかと考えた。見る角度によってはうろこ雲になり、見る角度によっては紅葉となるような、移ろいのある空間を目指した。

02_素材コンセプト - 突板と再生紙 持続可能な材料の新たな出会い -



突板は天然木を薄くスライスするため、希少な木を無駄なく使うことができる。より多くの製品が製作できるため、環境負荷低減につながり、比較的安く木材を利用できる。さらに今回は国産の広葉樹を選定することで、育成し大切に利用する必要がある国産広葉樹の新たな利用方法を提案することを意図した。また突板の構造的補助素材として、再生紙の和紙を利用することで資源の有効活用を行う。そして構造的に突板には、しなやかさと強度があるため、和紙を組み合わせることで部材を構成し、それだけで自立した構造が可能と考えた。繊細な材料から生まれる、しなやかな曲面をもつ茶席空間とのひと会を目指した。

03_形態決定

全体
 紅葉に包まれる木陰空間とうろこ雲の秋空を空間モチーフとし、小さなものが集まり包みこむような茶席の空間をつくる。視線や人の動きによって見え方が変わる茶席は移ろいやすい秋空を表す。

材料
 突板のみ：曲げにより折れ曲がる
 突板の裏に和紙：曲げの後元に戻る
 突板のみだとある一定のところまで曲げると、折り曲げ部が割れ、座屈が生じてしまう。一方、裏側により粘りのある和紙を張った突板は靱性が高くなり、曲げに対する割れを防ぐことができる。また意匠的には、見る方向により見え方を楽しむことができる。

ユニット
 紙状の物質である突板を最大限活用するためのユニットを形成する。3枚を重ねて留めることで長さを固定し、両側の二枚によって圧縮やねじりに対応する。このように作られた単位形状を縦横につなげていくことで、しなやかな面の要素を構成する。

紙状の物質である突板を最大限活用するためのユニットを形成する。3枚を重ねて留めることで長さを固定し、両側の二枚によって圧縮やねじりに対応する。このように作られた単位形状を縦横につなげていくことで、しなやかな面の要素を構成する。

部材の切り出しからユニット生成の流れ

ねじれに対応

圧縮力

ユニット内での力

しなやかな面を構成する

04_施工計画 - ホチキスとユニットによる容易な工法 -

① 材料を切り出す。(突板、和紙)

② 突板の裏側に和紙を貼り付ける。

③ 寸法に従って三枚をホチキスで接合し、三枚の突板が一体となった線的な要素が形成される。

④ 線的な要素を縦に伸ばすように、決めた角度にホチキスで接合する。

⑤ 面的要素とするように、外側の凸部分をホチキスで接合する。

⑥ 強さとしなやかさを持つパーツが出来上がる。この手順を繰り返すことで最終的な形が得られる。

05_構造計画

ダイアグラム
 ■ 全体計画
 曲面が全周に配置されていることで、全体的にバランスのとれた形となる。

スタディ
 茶席空間を包み込む空間と強度の両立を確認するため、ケント紙で1/2枚計用模型を作成した。ユニットの使用方向、組み立て方式、ホチキス固定角度などを検討した。

■ 柱の計画
 強度を保つため密に編みながら、末広がりのようにすることで安定性を高める。

■ 曲面の計画
 柱に近くなるに従って密に編むことで、折れを防ぎ安定させる。

ディテール

■ 曲面部分
 スタディで算出した角度を付けながら、ホチキスで固定する。

■ 底部
 地面に近くなるにつれて部材幅を大きくしていくことで先を重く、接地面を大きくし、安定性を高める。また底部をつなぐことでねじれを防ぐ。

■ ユニット詳細
 突板と和紙を重ねた3枚を容易な工法で接合する。

■ 素材
 移ろいを表現するた
 ・赤褐色突板 厚さ0.5mm (曲面)
 ・国産突板と再生和紙
 ・茶色系突板 厚さ0.5mm (曲面)
 紙を使用する。
 ・白色系突板 厚さ0.5mm (柱)
 ・白色和紙 厚さ0.1mm

06_平面計画

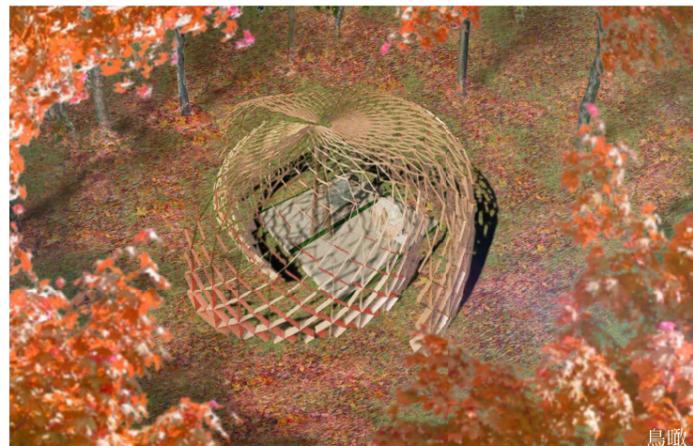
動線に従って、見えるユニットの素材配置を行うことで、移ろい空間のコントロールを行う。和紙の面が見える位置に立つと、うろこ雲がイメージされた空間となり、また突板が見える位置に立つと紅葉に包まれたような空間となる。

■ 内部空間
 上を仰ぎ見る角度によってはうろこ雲になり、見る角度によっては紅葉となるような、移ろいのある空間となる。

■ 茶道口、開口
 入るときは、うろこ雲に導かれるような空間となる。帰りにには枯れた色の紅葉が見え、時間の移ろいを感じる。

■ 外部空間
 曲面の外周を歩きながら茶席を見ると、ある場所はうろこ雲のよう白く、ある場所は紅葉から枯葉へと移り変わる。

秋空の下でのひと時
 ①ある秋の再会
 ②うろこ雲の誘い
 ③楽しいひと時
 ④廻路を導く枯葉
 ⑤再会を願う別れ



鳥瞰

内観

見上げ